

平成 18 年度第 3 回釜石市社会教育委員会議開催結果

1. 開催日時

平成 19 年 3 月 28 日（水）午後 1 時 30 分～4 時

2. 場 所

教育センター 5 階 岩手大学釜石教室

3. 出席委員 9 名

柏崎龍太郎議長、柴田渥副議長、嵯峨左千夫委員、山田市雄委員、工藤保治委員、京極絵里委員、神林峰子委員、澤田恭子委員、鈴木洋一委員

4. 欠席委員 6 名

枡澤育子委員、佐々木暁美委員、菅原 章委員、小野寺有一委員、藤原昌教委員、須藤公文委員

5. 事務局出席者 15 名

河東教育長、岩鼻次長、佐藤生涯学習スポーツ課長、猪又市民文化会館長、中村図書館長、矢畑釜石公民館長、小笠原栗橋公民館長、大久保唐丹公民館長、佐々木郷土資料館長、前川生涯学習課長補佐兼文化係長、小池生涯学習係長、前川主任、山崎社会教育主事

6. 傍聴人 2 人

7. 経 過

（ 1 ） 開会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言。

（ 2 ） 教育長挨拶

内容は省略

（ 3 ） 社会教育委員会議議長挨拶

柏崎議長からあいさつ。内容は別紙

（ 4 ） 協 議

生涯学習スポーツ課（公民館・郷土資料館事業含む）、市立図書館、市民文化会館の平成 18 年度生涯学習事業の実施状況について、生涯学習係・公民館事業は小池生涯学習係長、文化係関係事業・郷土資料館関係事業は前川補佐、図書館事業は中村館長、市民文化会館事業は猪又館長がそれぞれの資料に基づき説明し、その後質疑応答、意見交換を行った。

次に平成 19 年度釜石市生涯学習事業の概要について、同様の説明、質疑応答を行った。

（詳細は別紙のとおり）

（ 5 ） その他

協議終了後、異動並びに退任となる事務局員の紹介と、あいさつを行い終了。

（ 6 ） 閉会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が閉会を宣言。

柏崎議長あいさつ

色々な分野で、年度末の忙しいスケジュールを調整し、ご参加いただきありがとうございます。

18年度の事業を検証し、19年度の事業に生かしていくことが重要です。年度末のため欠席委員が多いが、欠席委員の分まで熱心な討議をお願いしたい。

皆さんご存知のとおり、生涯学習という言葉がどこでも聞かれるようになった。社会教育より浸透してきている状況だ。市民の回答でも教育に熱心に目を向けている気がする。3月市議会においても、これまでになく教育に関する質問が多かった。これも教育への関心の現れである。その要因としては、教育3法の施行が挙げられる。

今日の協議の材料となると思うが、平成19年度は生活応援センターが生涯学習の場でどのような成果を上げるかが課題でもあり注目している。心配なのは、生活応援センターの中での公民館機能がどのように発展をとげていくかが大事なことだろう。

身近なところで確認すると、教育長が「早寝、早起き、朝ご飯」を提唱しても、釜石市ではあまり浸透していない状況だ。平成17年7月には食育基本法が制定されているが、地方自治体の義務である教育推進基本計画の中で達成目標を定めているにもかかわらず、自治体の取組みが弱いのではないかと痛感している。19年度事業では、子どもの健全育成の方向を含めて、更に食育を広く市民・家庭に定着させていきたい。

本日は、既に事務局から資料が送付されているので、的を絞った質疑、効率的な会議の運営にご協力をお願いしたい。

各担当から資料に基づき一通り方針と計画について説明

質 疑

- 鈴木委員 : 生涯学習推進協議会の計画があるが、推進本部との関係において、その役割が重複してはいないか。また、必要性、具体的な役割を教えて欲しい。
- 小池係長 : 生涯学習推進協議会とは、庁内の推進本部とは別なもので、平成17年度に策定した「釜石市生涯学習推進計画」の中でも位置付けられているもの。平成17年度までは、社会教育行政中期計画であったが、平成18年度から釜石市生涯学習推進計画と内容も拡大・充実した計画となった。その際、生涯学習を推進するためには、学校やスポーツ関係者、或いは、社会教育の中においても、教育機関ごとに様々な審議会が存在しているが、その意思統一を図るものとして、社会教育委員会議では限界があり、新たな枠組みが必要だということとなった。つまり、各審議会の意向を生涯学習の場に反映する機関ということで、具体的には社会教育委員会議を母体として、各審議会の代表も委員となってもらうという発展型となるということである。ただし、本庁でも総合振興審議会等もあることから、屋上屋にならないよう周辺の動向を見極める必要があるということである。
- 柏崎議長 : 生涯学習が機能的に動くまでに3・4年かかる。進め方は慎重であるべき。組織的に余程コントロールをしっかりとしないと、問題が生じることになる。事務局からの説明にもあったが、ねらいは生涯学習を活性化することにある。見極めながら慎重に計画を練っていただきたい。
- 京極委員 : 各公民館で裁判員制度に関する講座を行ったようだが、身近に差し迫ったものを感じられた。数年後には始まるようであるが、現在の市民の認知はどの程度か、どのような実施体制となるのか、感想でも良いから教えて欲しい。
- 小池係長 : 裁判員制度に関する講座は、鶴住居公民館はビデオ上映であったが、その他は、実際に

盛岡地方検察庁の職員が来訪し、ビデオの上映と概要説明、質疑応答も行った。特に甲子地区は100人を超す受講者を得て開催した。基本的には、裁判員は法律の詳細な知識は要らない、法律の知識については、現場の裁判官が指導する。裁判員については、様々な犯罪が起きているが、法律家の枠内で決めるのではなく、市民のモラルを取り入れることが狙いであると感じた。この裁判員については、刑事事件、しかも殺人等の重大な事件を扱うことになる民事は行わない。そこで、市民の常識・モラルを取り入れたいということになる。刑の量刑も裁判官とともに決めることとなる。

柏崎議長 : 公民館に限定せず、一般知識として知らしめることが必要だ。教育委員会でももっと周知させる必要がある。一般的な知識の普及を図るべき。

河東教育長 : 市民団体が判事を呼んで講演会を聴くということもやっている。

小池係長 : 言いわたしたが、平成19年度の出前講座のメニューに加えることとなっている。

柏崎議長 : 郷土芸能祭は盛況だった。黒森神楽を呼んだことが要因と言われているが、それ以外にもアイデアを入れた。小川幼稚園鹿踊り、釜商虎舞を呼んだことも要因と考える。工夫することは良いことである。

前川補佐 : 今回のポスターの評判も良かった。

柏崎議長 : 組織・活動はどうなっているのか。

工藤委員 : 伝統文化こども教室に関して、芸文協の中には小さな団体で潰れそうな団体もあり、大変良い機会だと羨ましく思っている。茶道、琴、華道にとっては次の世代が育ってよいことであるが、盆栽などは会員が減りつづけ、7人程度まで減っている。そこで、伝統文化こども教室を使えるかどうかだ。新しく採択されるためにはどうしたら良いか、予算はどうすれば良いか、その辺をお聞きしたい。

前川補佐 : 平成15年度から始まっているが、事業の企画立案から創意工夫まで全て団体が行っている。教育委員会が仲立ちしている例も無い。もし取り組みたいと思うのであれば、現在実施している団体から直接ノウハウを聴くことが良いのではないかと。

工藤委員 : 茶道など大きな団体は対応し易い。盆栽などはどこかの力を借りない限り難しい。

柏崎議長 : 現実に困っていることは広報を利用するなど発信していくしかない。放っておくと、正に存続の危機になる。

柴田副議長 : 公民館活動の中で地域に入り活動する方法もある。地域的なつながりを持つことにもつながる。

工藤委員 : ビデオクラブでも同様の状況だ。危機的な団体を調べればもっとあると思う。それらのために活用できないかということだ。

河東教育長 : 構成員が減ると会自体の動きも鈍くなる。世代間の交流を図っていくべき。特に若い層を取り組むことが必要。茶道、琴でも年間15講座実施している。団体は、ボランティア・マンツーマンでかなり大変な労力をかけて行っている。中には2つの講座を掛け持っている子どもが3人もいた。

柏崎議長 : 郷土芸能でも人の確保に苦労している。どこでも知恵を出し合い何とか継続しているようだ。

私からの質問になるが、生涯学習講座などに高校生の参加が目立っている。学校側で働きかけをしているのか。

山田委員 : 学校に来ているものは、全て生徒に紹介している。独自に情報を収集し参加しているものもあるようだ。

柏崎議長 : 事務局でも働きかけを続けて欲しい。

図書館事業の教職員の10年研修とは何か。

- 中村館長 : 図書館が募集するのではなく、県教委が行っている研修であり、各自選択させるものである。図書館は知的なイメージがあるのか応募は結構ある。ただ、実際体験しての感想では、肉体労働で大変だったという感想が多い。図書館が1年間に行っている業務を1日に集約してやってもらうこととしている。大変好評である。この他、東中学校の生徒による職場体験も定着している。
- 柏崎議長 : 市民文化会館の自主事業の結果がまとめられている。収入率にバラツキがある。差があった場合、穴埋めはどうしているか。
- 猪又館長 : 実際には助成事業があってはじめて成り立っているところがある。助成が無いと全て赤字となる。
- 柏崎議長 : 硫黄島からの手紙も午前は人が入ったが、午後は新仙人峠の開通があったせいか、人も思ったより入らなかった。
- 猪又館長 : 言い訳になるかもしれないが、3月18日は文化会館の方が先に日程を入れていた。ただ、国・県を巻き込んだ事業との同列での日程調整にはならないので仕方ない。
- 柏崎議長 : かまいし情報カレンダーの運用開始もしたことだし、教育委員会も強くなるべき。
- 工藤委員 : 市民劇場のアンケート結果、良かった点、悪かった点を公表したことは大変良いことだと思う。個人的な感想でより良くしたいために言うが、人は確かに入ったと思うが、キャストの技術・技能は年々落ちていると思っている。かつては、核となる劇団経験者も何人か居た。研修会も行っているようだが、良く書いた人は関係者、批判的な人は別の地区と比較しているのだと思う。新聞の取り上げ方も異なる。第三者から見ると違いがあるのではないか。演技の技術指導などはしているのか。
- 猪又館長 : 遠野との比較で言えば、遠野の手づくり舞台は釜石より10年長い実績がある。年に一度手作り舞台の集まりがあり、今年度は13団体が集まり技術指導会と交流会を兼ねて参加している。実行委員会の年齢層も高くなり、人が揃う時間も無い中で行っている。監督の小室さんも熱心にやってもらった。
- 工藤委員 : キャストがあまりにも変わっていないか。
- 猪又館長 : 公募という事でやっている。
- 工藤委員 : かつては2・3人の核になる人が先導した。遠野が昔から評価が高いのは何故か。
- 猪又館長 : 遠野では地区単位で人を出してもらうので、参加が多いといった差が出ているものと思う。
- 柏崎議長 : 釜石ならではの特色として広く門戸を開いている。見方によれば歯がゆく思う人もいるかもしれない。

== 平成19年度の生涯学習事業の概要について ==

- 鈴木委員 : 要望になるが2点ある。平成19年度に大きく変わる生活応援センターの設置である。公民館の複数体制化は良いが、業務はハードになると思う。先ず地域の独自性を出すことが大事である。また、横の連携をとりながら活動に結び付けていくことを期待する。
- 次に、放課後の子どもたちに関し、学童・児童館が統合により状況が変わる場合もある。その支援を大切にしたい。
- 放課後の居場所は、施設により格差がある。甲子の学童クラブは床が危なかったりする。学校内に学童があれば良い。とにかく放課後の子どもたちの支援を大切に。

- 柏崎議長 : 前段は委員の総意だ。放課後について事務局で話せることがあればお願いしたい。
- 小池係長 : 放課後子ども教室事業は、文部科学省と厚生労働省が連携した補助事業である。大きな違いは対象児童があるということ。学童クラブは基本的に共稼ぎ家庭を対象しているし、子ども教室は全児童を対象としている。確かに競合する部分もあるが、連携していくことは可能と考える。例えば子ども教室事業では勉強も行うことになるが、差を生じさせないため、学童クラブの子どもたちも自由に参加できる環境をつくろうと思っている。これまでの子どもの居場所事業の実績を踏まえ、連携していきたい。
- 河東教育長 : この事業は地域の力を借りないと上手くいかない。教職員OB 或いは現役教職員の力も必要となる。保護者の中には、まだ誤解している人もいる。国庫補助はせいぜい2年、その後の地域との連携、その支援をどうするかを考える必要も出てきている。
- 鈴木委員 : 少子化に対応していく事業で、その支援という意味合いがあり充実させて欲しい。
- 柏崎議長 : モデル事業が一箇所だけだったが、6箇所で行うこととなる。地域の力を入れていく必要がある。
- 山田委員 : 社会教育は一般の人対象という印象がある。少年も小学生が中心で、中高生対象の事業は一部しか見受けられない。青少年の心の教育を図る上でも、高校生、中学生にも門戸を開いて学社連携していく、良い事業は周知し、中高生を引き入れることが必要だ。
- 嵯峨委員 : 子どもの居場所は考えていく課題である。ぜひ進めて欲しい。また、食育も大切である。弁当の日(子どもが食材を買ってきて、親子で調理する)の設置なども良いのではないか。学校と地域の共通課題を一つにしていく必要がある。子どもたちのキャリア教育も必要だ。

【主な質疑・対応方針等】

- 意見)生涯学習推進協議会の設置については、組織的に余程コントロールしないと問題が生じる。慎重に進めるべき。
- 要望)裁判員制度については、公民館に限定せず、一般知識として知らしめることが必要だ。教育委員会でももっと周知させる必要がある。一般的な知識の普及を図るべき。
平成19年度に出前講座メニューに掲載するほか、工夫に努める。
- 質問)伝統文化こども教室について、盆栽等小さな団体でも採択が受けられるよう支援できないか。これまでも運営について行政は関与していない。実際行っている団体からノウハウを聴くほうが参考となる。
- 質問)市民劇場は盛況だったが、過去と比べキャストの技術・技能が落ちているのではないか。
公募によりキャスト募集しているので、キャストも変わる人が多い。研修は行っている。
- 要望)放課後の子どもの支援を大切に。
- 要望)もっと中高生が参加できる講座の設定、周知を図って欲しい。
- 要望)子どもの居場所は地域で考えるべき課題だ。学校と地域の共通課題をひとつにしていく必要がある。